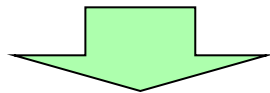


八戸市中心市街地活性化基本計画 (計画期間 20年7月～25年3月)

【中心市街地を巡る状況】

- 江戸時代、八戸城を中心とする城下町として街並みが形成される。昭和39年には新産業都市の指定を受け、臨海部における工業集積が急速に進み、中心市街地の都市化も進展
- 郊外部への大型店舗の進出、業績不振による各店舗の撤退により、中心市街地の役割が低下
- 平成22年度末には東北新幹線が延伸 (八戸～新青森間) 予定



○歩行者通行量の減少

表通り主要8調査地点 (休日)

H12 : 77,739人

→ H19 : 39,121人 (49.7%減)

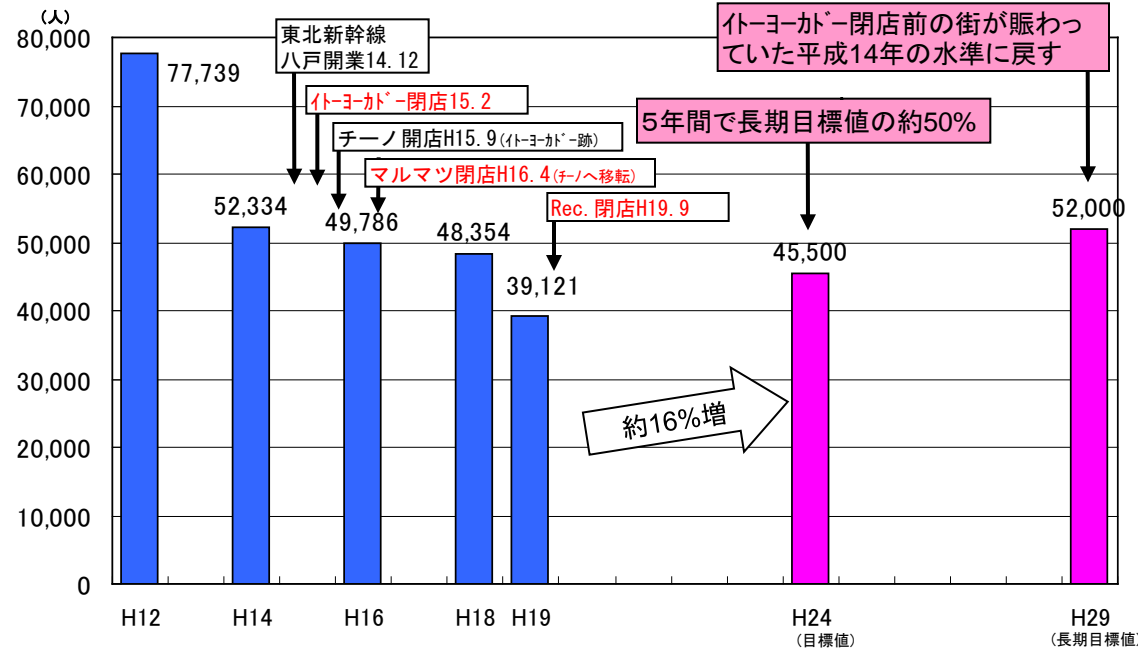
○居住人口の減少

H12 : 5,146人 → H19 : 4,635人 (9.9%減)

【目標】

目標	指標	現況地(H19)	目標値(H24)
来街者を増やす	歩行者通行量(休日)	39,121人	45,500人
定住を促進する	居住人口	4,635人	4,800人

(歩行者通行量 (休日) の推移)



地域交流やまちなか居住を促進する施設の整備を行うとともに、地場産品が集まる市日を復活させるなど、地域住民の日常的な生活の中心として街の再生を図る。

八戸市中心市街地活性化基本計画の事業概要

「ハレの場」としての復活

○現存する小路・横丁等と連続した、新たな**パサージュ(小路)**や**パティオ(広場)**を整備し、**テナントミックス店舗**など商業施設と一体となった**回遊空間の形成**を目指す

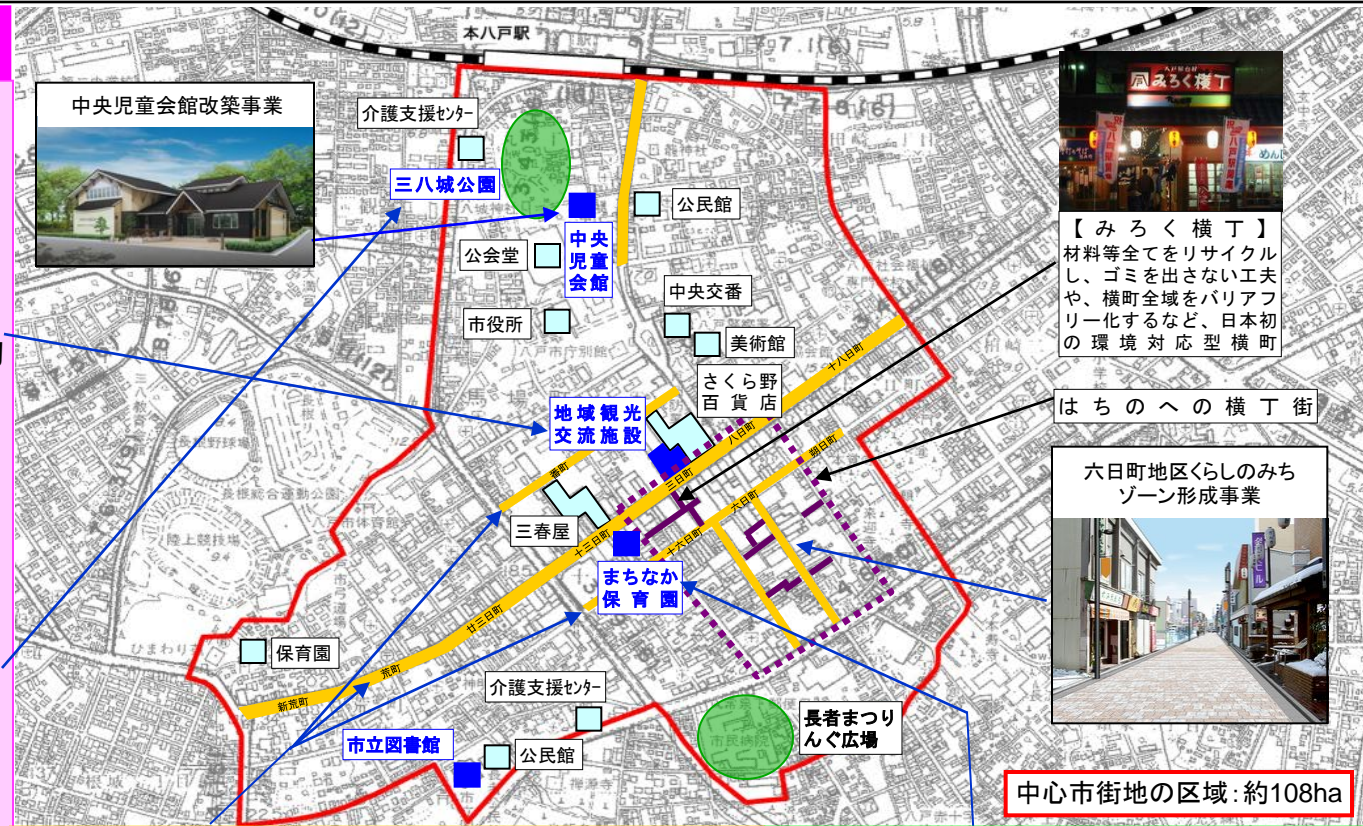
○海・山・横丁など八戸特有のテーマ別展示施設や各種イベントを開催可能な多目的ホール、絵画・演劇・茶会など市民活動をサポートする施設を備えた**地域交流施設**を整備することにより、中心市街地における交流を再生する



○八戸城址等を有する駅前の**三八城公園**を、中心市街地の玄関口として整備し、来街環境の向上を図る

○3社が運行する**市内バス路線の運行スケジュール調整**、並びに、バスの現在地や停留所の待ち時間を表示する**バスロケーションシステムの導入**により、来街者の利便性の向上を図る

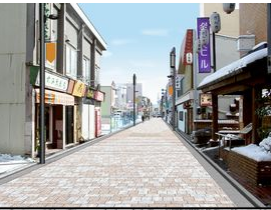
○**高齢者が集い・ふれあう場**として、公民館等を利用したサロンを開設し、閉じこもりがちな高齢者の街中誘導を図る



【みろく横丁】
材料等全てをリサイクルし、ゴミを出さない工夫や、横町全域をバリアフリー化するなど、日本初の環境対応型横町

はちのへの横丁街

六日町地区くらしのみちゾーン形成事業



中心市街地の区域:約108ha

日常生活の場としての再生

○周辺農家の作物の販売などを特徴とした**各商店街の市日**を復活させ、日常生活の場とすることにより、街の賑わいを再生する (現在:4街区開催→将来:10街区以上開催)



○買物ポイントの**ICカード化**を進め、バス運賃や駐車料など利用範囲の拡大を行い、来たい・来やすい街とする

まちなか居住の促進

○市が借り上げる**民間賃貸住宅を公的賃貸住宅**として供給するとともに、**新規住宅取得者に対して資金支援**を行うことにより、まちなか居住の促進を図る

○空き店舗を活用した**「まちなか保育園」**を開設し、まちなか居住における子育て環境の整備を図る

